

教授候補者の募集について

岩手大学農学部農学生命課程教授選考委員会
委員長 吉川信幸

本課程では、下記の募集要項により教授1名を広く公募します。選考は本学の定める手続きにより行い、結果は応募者本人にお知らせします。

記

岩手大学農学部農学生命課程教授募集要項

1. 職種・人員

教授 1名

2. 所属・担当

農学部農学生命課程に所属し、生命資源科学コース応用昆虫学を担当していただきます。大学院（修士課程）はバイオフィロンティア専攻に所属します。

3. 教育研究分野・担当科目

(1) 教育研究専門分野：応用昆虫学（特に、昆虫機能利用学、昆虫生理生化学、分子昆虫学を中心とした教育研究を担当できること）

(2) 主要担当科目

学 部：応用昆虫学、昆虫バイオテクノロジー

大学院：昆虫バイオテクノロジー特論

その他：生物制御学概論(分担)、バイオテクノロジーとバイオ産業(分担)

4. 応募資格

(1) 博士の学位を有する方

(2) 当該分野において教授にふさわしい研究業績を有し、今後、新規性、独創性のある研究を展開できること

(3) 教授として相応しい人格を有する方

(4) 学部生および大学院生に対する教育研究指導を熱心に行えること

(5) 学部および課程の運営に積極的に参加できること

5. 任用予定日

平成23年12月1日以降のできるだけ早い時期

6. 提出書類

(1) 履歴書1通（写真貼付、署名、捺印のあるもの、市販の履歴書で可）

(2) 研究業績目録1部（別紙作成要領を参照）

(3) 主要論文別刷5編（コピー可）

(4) これまでの研究概要および今後の教育・研究に対する抱負(2000字程度)

(5) 照会可能な方2名の氏名と連絡先

7. 公募締切日

平成23年9月9日(金)

8. 応募書類提出先および問い合わせ先

提出先：〒020-8550 盛岡市上田3-18-8 岩手大学農学部農学生命課程

教授選考委員会委員長 吉川信幸

(応募封筒には「農学生命課程教授 応募書類在中」と朱書きして、簡易書留で郵送して下さい。なお、応募書類の返却を希望する場合は切手を貼付した返却用封筒を同封して下さい。)

問い合わせ先：電話・Fax：019-621-6150, eメール：yoshikawa@iwate-u.ac.jp

(問い合わせは、出来るだけeメールでお願いします。その場合、件名を【農学生命課程教授公募について】として下さい。)

9. 面接

書類選考の後、応募者の来訪を求め、面接等を実施する場合があります(この場合の交通費等経費は自己負担になります。)

10. その他

(1) 農学生命課程のホームページURLは次の通りです。

<http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/index.html>

(2) 業績および資格に係る評価が同等である場合には、男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、女性を優先的に採用します。

「研究業績」の作成について（2007. 4）

農学部教員人事委員会

研究業績は、A4判の用紙に A. 著書・訳書、B. 学位論文、C. 総説・論説、D. 原著論文 (a) 学術雑誌*¹、(b) 紀要*²、(c) プロシーディングス、E. その他*³、F. 報告書・事業報告書等*⁴、G. 特許・設計等、H. 国際学会発表*⁵、I. 国内学会発表*⁵の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り上げてください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度（日本文の場合フォントのサイズは10.5～12程度）にしてください。

- *1：学会誌、国際誌等を年代順に記載する。
- *2：試験場報告、研究所報告等を含む。
- *3：商業雑誌、資料等を記載する。
- *4：調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等を記載する。
- *5：最近5ヵ年について記載する。（教授選考の場合、I. 国内学会発表は不要）
- *6：著者名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。
- *7：英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。
1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
- *8：学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。
- *9：論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド（太字）とする。
- *10：Journal は略記する。
- *11：発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

〈記載例〉

研 究 業 績 （著書・学術論文等）

A. 著書・訳書

1. 岩手一郎（単著）（1990）
農学について．〇〇出版社，東京，100p.
2. 岩手一郎（分担執筆）（1991）
北上山地における畜産業，「岩手の農業」（大学太郎，学部一郎編），△△堂，盛岡，pp. 10-20.
3. 岩手一郎（分担翻訳）（1992）

トウモロコシ,「アメリカの農業」(A. B. Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京, pp. 20-30.

4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆) (1993)
Agriculture in Japan, "Agricultural Sciences"(Eds.: D. E. F. Green and H. I. James), Bio Press, London, pp. 20-30.

B. 学位論文

1. 岩手一郎 (1980)
X Y Zに関する研究. [◇◇学修士または修士 (◇◇学) ○○大学]
2. 岩手一郎 (1983)
A B Cに関する研究. [◇◇学博士または博士 (◇◇学) ○○大学]

C. 総説・論説

1. 岩手一郎 (1994)
岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No.3 : 1-5.
2. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1995)
岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15 : 215-220.

D. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 岩手一郎 (1985)
岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 5 : 15-20.
2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J. Anim. Sci. 20 : 100-105.
3. Iwate, I. (1990)
Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25 : 15-20.

(b) 紀要

1. 岩手一郎 (1985)
トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 17 : 30-40.

(c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)
Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp. 101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1990)

北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No.125 : pp. 35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシのPCB汚染. 自然動物調査報告 (△△県), pp. 10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

H. 国際学会発表 (最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)

Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表 (最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1997)

岩手の野生動物. 第100回日本野生動物学会講演要旨 : 25-26.